

東アジア唐芋友好ワークショップ開催の目的と経緯

一般財団法人いも類振興会 理事長

かりや
狩谷

あきお
昭男

1 唐芋による民間の国際交流

(1) 2000年代に入り、中国や韓国の唐芋(甘藷、サツマイモ)関係者が、唐芋の視察のために鹿児島県大隅半島を訪れはじめた。それはNPO法人唐芋ワールドセンターの郷原茂樹代表が経営する次の①から③に示す唐芋事業を、「6次産業のモデル」として見学・研修することが主な目的であった。

①生産：160品種の唐芋を栽培する農場

②加工：新鋭ライン工場におけるオリジナルな唐芋ケーキの製造

③販売：鹿児島県下をはじめ東京などにおいて、唐芋ケーキを販売する店舗の全国的な展開

(2) このような唐芋事業の総合的な実践によって、農村に新たな就業の場をつくり、都会との富や文化などを環流させるシステムが形成されていった。東アジアを中心とする海外から視察に訪れた人たちは、特にこの生産から加工・販売に至るシステムに注目したのである。

一方、郷原代表は日本の仲間たちと中国や韓国をたびたび訪れ、唐芋についてお互いに学び合い、活用しあう自主的な交流を重ねていった。こうして、ごく自然に始まった民間主導による唐芋の国際交流活動は、2010年には大隅半島に日本、中国、韓国の代表者が集まり、東アジアにおける唐芋の

産業振興を通じて友好を図ることを目的に、NPO法人唐芋ワールドセンター東アジア唐芋友好協会を新たに設立し、活動をスタートさせたのであった。

2 東アジア唐芋友好ワークショップ開催の経過

(1) 東アジア唐芋友好協会は、日本、中国、韓国3か国の持ち回りで、これまでに7回の唐芋友好ワークショップを開催している。

第1回 日本（鹿児島市、鹿屋市）
2010年2月

第2回 中国（北京市、青島市）
2010年4月

第3回 韓国（全羅南道・務安）
2010年8月

第4回 日本（鹿児島市、鹿屋市）
2012年11月

第5回 韓国（金堤市）
2014年7月

第6回 中国（湖北省・宜昌市）
2015年11月

第7回 日本（指宿市）
2016年11月

(2) 2016年11月27日に開催された第7回の東アジア唐芋友好ワークショップは、日本、中国、韓国、台湾から110名（中国13名、

台湾5名、韓国39名、日本53名）の参加者を得て、鹿児島県指宿市の指宿いわさきホテルで行われた（写真1～3）。

本特集では、唐芋友好ワークショップで

発表のあったものの中から主要なものを選び、その発表要旨を、「いも類振興情報」編集部の文責（狩谷昭男）により取りまとめたので紹介したい。



写真1 唐芋ワールドセンターの郷原茂樹代表（中央）を囲む韓国の参加者



写真2 唐芋友好ワークショップの晩餐会



写真3 第7回東アジア唐芋友好ワークショップの集合写真